

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月23日(月)

活動隊員：網木政江、福島芳子

1. 活動日時

令和6年1月23日(火) 0:00~24:00

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校 (避難者 49 名)

3. 被害状況 (消防庁：1月23日 14時現在)

人的被害：石川県死者 233 人 (うち珠洲市 99 人)

住家被害：建物全壊 83 棟、半壊 1,249 棟、一部損壊 12,574 棟

床上浸水 6 棟、床下浸水 19 棟

4. 天候 雪 最高気温 4℃ 最低気温 -1℃ (避難所内 気温 21.1℃、49%)

5. 活動の実際

00:00 避難所内巡視

04:00 避難所内巡視

05:00 トイレ清掃・トイレ物品補充

07:00 要観察者の体調確認・避難者全員へ Hot タオル配布

07:00 感染隔離者への食事の配膳、回収

08:00 【珠洲市保健医療福祉調整本部ミーティング (Zoom 参加)】 (音声不良)

- ・珠洲ケアユニットは1月末で撤収する。

- ・正院小学校にご厚意で洗濯機が設置されたが、下水道が未復旧のため撤去された。

- ・雪予報のため、本日夕方のミーティングは中止、各隊で報告とする。

1/24 朝のミーティングは9時に変更。到着が難しい場合はオンラインでの参加も可。

08:45 避難所エリア使用状況 (人数) の確認、喀痰喀出時に嘔吐あり対応 (要観察者)

09:00 感染療養解除者、要観察者の体調確認

09:30 換気・ストレッチ体操指導

10:00 部屋移動 (15 名)

11:00 珠洲市社会福祉協議会デイサービス利用者ニーズ調査来所

11:45 口腔ケア・飲水介助 (要観察者)

12:45 受診調整 (要観察者)

- ・認知症高齢者の食事摂取量および急激な ADL 低下、脱水症状

- ・1/24 以降に大雪予報のため、1/23 中の調整を実施

13:30 Hot タオル清拭・更衣介助 (要観察者)

14:00 珠洲市副市長が来所

14:35 DMAT 医師・看護師避難所到着

- ・診察後、医療機関搬送決定

15:15 珠洲市総合病院へ自衛隊車両にて搬送開始

15:30 避難所エリア使用状況 (人数) の確認

16:00 要観察者への Hot タオル清拭・更衣声掛け

16:30 換気・ストレッチ体操指導

18:00 段ボールベッド設置 (要観察者 2 名)

19:00 【避難所スタッフミーティング (珠洲市立大谷小中学校)】

参加者：避難所リーダー、千葉県職員 4 名 (本日～)、日本災害看護学会 2 名、珠洲市消防署大谷分団 1 名

- ・避難所内 49 名、感染隔離者 0 名、入院 1 名。

- ・15 名の部屋移動を行い、学校の教室として使用できるよう 102、103、202 をあけた。

- ・消防：日中4名を、明日から3名体制へ変更。夜間は4名のまま。
- ・環境省による災害ゴミ集積場調査が行われた。
- ・ポータブルシャワーが本日設置される予定だったが、雪のため延期。
- ・上履きに履き替える場所に車いす通行スペースを作っているが、スリッパや靴があり、通行の妨げになるだけでなく、転倒リスクにもつながる。
⇒分かりやすい表示方法に変更し、気づいた人がスリッパをそろえるようにしていく。
- ・自衛隊衛生班の巡回診療は、受診希望調査を毎回してから依頼するのではなく、週2日の定期巡回を希望。⇒明朝、保健医療福祉調整本部ミーティング時に要望する。

20:00 避難所内巡視

21:00 消灯

夜間シフト体制

看護師 A：21:00～1:00 B：4:00～7:00

千葉県職員 A：20:00～4:00 B：00:00～4:00 C：4:00～7:00

6. 考察

COVID-19、インフルエンザの発症による感染隔離はすべて解除され、感染拡大を防ぐことができた。しかし、水道が未復旧で衛生状態を保持しにくい環境であり、避難生活のストレスにより高齢者の免疫力はさらに低下していることが考えられるため、手指衛生、マスク装着、環境整備などの感染予防対策を継続していくことが必要である。15名の部屋移動、配置換えを機に段ボールベッドも全員に設置でき、床からの粉塵の吸入防止や冷氣、足音の対策に繋がっている。

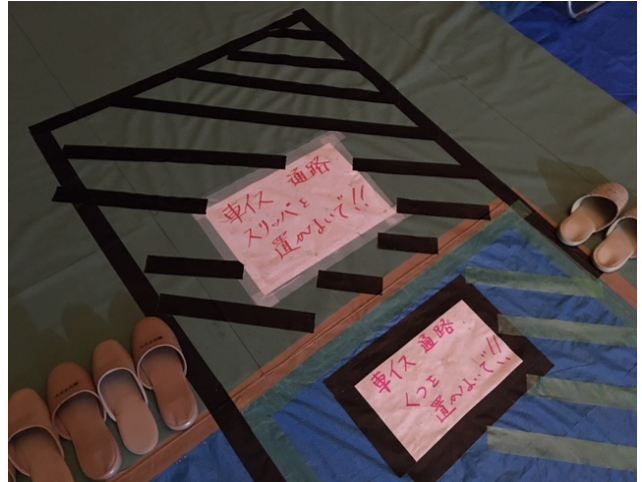
本日設置される予定であったポータブルシャワーが延期となり避難者の方にとっては残念なことではあったが、蒸しタオルを使った清潔ケア、衣類の交換により、表情も和らいだように感じた。部屋の集約化により、相互交流や自発的な活動が見られるようになり、少しずつ変化している様子を感じられる日であった。一方、91歳男性に急激な食欲低下、ADL低下、脱水症状がみられ、搬送するケースがあった。急激な環境の変化による認知症の進行に起因するものであったが、全体としても要介護者のADL低下や認知症の進行、体調の急激な変化に注意し、生活リズムを整えていくことが必要である。

今後、二次避難所、1.5次避難所への移動(25名)が予定されており、避難所も縮小化に向かう。再度、避難所内の配置換えをすることになるため、今後は、食事スペース、談話スペース、子ども学習スペース、男女別の更衣室など、「生活」を意識したレイアウトの工夫、改善が必要と思われる。また、これまで、避難所運営も住民ボランティアによって食事提供など行われてきたが、ボランティアの数も減り、避難所を運営する方への負担増大も懸念される。千葉県職員の避難所運営支援が行われているが、避難所運営者の疲弊を配慮し、避難者の協力も得ながら自主運営をサポートしていくことが必要と思われる。

7. 参考写真



DMAT による患者搬送



車いすの通路確保